

平成28年度活動報告書（1/1）

学部・委員会名 短期大学部
 学部長・委員長等氏名 安藤 達彦
 担当所管 生物生産技術学科
 テーマ 教育研究活動の充実

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
1. 教員と学生との協同による研究活動の活性化をはかる。学生と教員のふれあう研究環境を築く。 2. 学生の研究・実習を通じた専門教育充実とプレゼンテーション力の向上をはかる。 3. 学生の進路に応じたきめ細かな教育の実施。留年生，原級生を少なくするべく面倒見のよい指導の推進をはかる。 4. 地域連携を視野に入れた教育・実習の充実と強化をはかる。
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
1. 各分野の教員が学生との触れあいをもって研究活動に取り組めるよう，授業・種々行事等に関わる時間配分の見直しを行う。 2. 全学生が研究テーマをもち，調査・研究に関わるとともに必ずプレゼンテーションを行うことを義務づけて社会で活躍出来る人材の育成をはかる。 3. 学科会議等を通じて学生の履修状況，生活状況等の情報を共有し，専攻教員，担任などが即座に対応・支援できる体制を強化する。 4. インターンシップ，実習，課外活動等を通じて，さらに研究活動をも含めた地域との交流をはかる。
3. 達成度を判断するための指標
1. 自己評価の実施。学科会議を通じて業務の配分等の見直しを行う。 2. 調査・研究・発表会などに教員が積極的に関わり合い，評価を行う。 3. 学科会議等を通じて状況把握を行い，複数の教員で状況を共有する。 4. どのような地域連携に関わっているかを全教員が把握する。訪問回数，連携に関わる成果報告・レポートをもって判断する。全教員が関わり合えるよう報告書の閲覧等を実施する。
4. 成果・評価
■成果 本学科の3つのポリシーに則し、きめの細かい教育を展開できた。
■評価（5～1で記載してください） 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた
5. 課題及び改善事項
6. 平成29年度への継続の有無
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成28年度活動報告書（1/1）

学部・委員会名 短期大学部
 学部長・委員長等氏名 安藤 達彦
 担当所管 環境緑地学科
 テーマ 教育研究活動の充実

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
(1) 学科ポリシーに則したカリキュラムの充実と研究室指導、授業の改善 (2) 学生の個性や進路希望に応じた、キメの細かい教育、研究指導 (3) 実学を主体とした実習、課外活動や体験活動を軸としての地域との連携強化 (4) 学生の学習や体験における場とその機会の拡充 (5) 短期大学部における学科協働による学生指導の推進
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
(1) 各分野のカリキュラムの内容、時間等の再検討・精選とその内容に則した授業の再編、シラバスの作成を行う (2) 研究室ならびにクラス担任等教員間相互の連携を密にし、毎週の学科会議等において情報交換、意見交換等を通じ、個々の学生の状況について把握し、理解する。 (3) 大学との連携協定締結地域の特性を活かした、実習・体験活動・卒業研究等の諸活動および動植物・景観等の調査を行うことによる地域貢献を通じた地域社会との交流を図る (4) インターンや各種実習において、実社会で活躍する卒業生や現場技術者、研究者等による指導や交流の機会充実を図る (5) 短期大学部共通授業や行事を通じた学科間の教員、学生およびそれらの相互交流を行い、学生の視野の拡大とともに教員の指導力の向上を図る
3. 達成度を判断するための指標
(1) 授業や研究室指導における教員と学生の自己評価および学生の満足度調査を実施する (2) 学科会議等での事例報告を通じた現状確認を行う (3) 各種活動参加への呼びかけと活動報告会等を開催する (4) 学生の興味や進路に応じた体験・学習の機会を提供し、レポート等による評価を行う (5) 各学科教員への積極的参加の呼びかけと授業参観、交流会等を実施する
4. 成果・評価
<p>■成果 本学科の3つのポリシーに則し、きめの細かい教育を展開できた。</p> <p>■評価（5～1で記載してください） 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた</p>
5. 課題及び改善事項
6. 平成29年度への継続の有無
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。

平成28年度活動報告書（1/1）

学部・委員会名 短期大学部
 学部長・委員長等氏名 安藤 達彦
 担当所管 醸造学科
 テーマ 教育研究活動の充実

※テーマは、具体的な計画・実行・点検・改善のためのPDCAサイクルの基本単位です。

1. 目標（改善点や実施の背景となる事由、達成したい目標など）
1. 醸造学を学ぶためのカリキュラムの充実と研究室指導、授業の改善 2. 学生の研究・実習を通じた専門教育の充実と教育研究指導 3. 実学教育に基づいた、学外実習・演習の充実 4. 大学行事を通じての、学科協働による学生教育の実施 5. 課外活動を通して、学生生活の充実を図る
2. 実施計画（具体的な方法・手段とスケジュールなど）
1. 各分野のカリキュラム内容を再検討し、内容の充実と再編・シラバスづくりを行う 2. 学生全員が研究室配属されていることから、研究室活動を通じて学生の指導を行う また、研究発表を通じてプレゼンテーションの向上をはかる 3. 学外実習により現場を体験させ、実社会で活躍するOB・OGや現場技術者・研究者との交流を図る 4. 短期大学部共通授業や行事を通じて、他学科の学生との相互交流を行い、視野の拡大をはかる
3. 達成度を判断するための指標
1. 自己評価の実施。授業評価により授業の見直しを行う 2. 学科会議において、学生の理解度や授業受講状況の把握を行い、学科教員全員で個々の学生の状況を把握し指導体制を充実させる 3. 課外活動などは、レポートやノート提出により理解度を把握するとともに、実習先での評価により達成度を検証する 4. 学外実習企業に教員が出向き、学生の実習状況を検証する
4. 成果・評価
■成果 本学科の3つのポリシーに則し、きめの細かい教育を展開できた。
■評価（5～1で記載してください） 4 方針に基づいた活動ができ、目標が概ね達成できた
5. 課題及び改善事項
6. 平成29年度への継続の有無
有

※添付資料がある場合は、資料名、資料番号を記載すること。